

(社)日本実験動物協会からの送付物の紹介

(社)日本実験動物協会から岡山実験動物研究会事務局に日動協会報、実験動物海外技術情報、実験動物・動物実験に関する小冊子などが送付されていますので一部紹介致します。

日動協会報No.31(平成2年)からNo.46(平成5年)までに掲載された特集記事のタイトルと著者名を以下に示します。

NO. 31 平成2年11月1日発行

バイオテクノロジーによる実験動物

……………山田 淳三

「農林水産分野における組換え体の利用のための指針」について ……………古賀 政男
トランスジェニック動物の有用性について

……………波岡 茂郎

トランスジェニックマウスの生産……………赤松 皓

NO. 32 平成3年1月1日発行

小型ブタの育種改良を……………岩崎 充利

小型ブタの生産・普及を……………藤田 濤吉

時勢に即した事業内容を……………上松 嘉男

モニタリングと委託飼育の実現……………高木 博義

先導者2人の遺志について……………鈴木 潔

会員からの情報を……………前島 一淑

“未(ヒツジ)年に因んで”日常生活に多目的に利用

……………田代 和治

NO. 33 平成3年3月1日発行

人材確保に抜本的対策を

生産施設における飼育管理技術者不足の現状とその対策 ……………日柳 政彦

大学における人材不足の現状と問題点

……………早川 純一郎

国立大学に所属する技術職員……………丸山内 一郎

NO. 34 平成3年5月1日発行

めん羊の生産対策について……………沖津 一陽

わが国のめん羊飼養の現状……………国政 二郎

実験動物としてのヒツジ……………清水 英男

NO. 35 平成3年7月1日発行

実験動物の標準的原価(生産費)……………常秋 美作

NO. 36 平成3年9月1日発行

床敷の将来の方向……………岩城 隆昌

実験動物用床敷の諸問題……………樋田 清

実験動物に対する床敷の影響……………朱宮 正剛

ヒトに対する床敷の影響……………山崎 省二

NO. 37 平成3年11月1日発行

将来の給水システム……………鍵山 直子

わが社の給水管理(その1)……………関口 富士男

わが社の給水管理(その2)……………成田 輝夫

自動給水装置の問題点(その1)……………大和田 一雄

自動給水装置の問題点(その2)……………浦野 徹

NO. 38 平成4年1月1日発行

家畜の実験動物化を促進……………赤保 谷明正

高品質実験動物の生産体制確立を……………藤田 濤吉

業界発展に全力を捧げる……………大河原 太一郎

実験動物のデータベース構築へ……………上松 嘉男

優良実験動物生産のため諸事業を……………高木 博義

技術師定着に企業努力を期待……………鈴木 潔

実験動物の重要性を広く周知……………前島 一淑

“申(サル)に因んで”ワタボウシタマリンのユニークな進化

……………山本 博

あまりにも身近かな日本のおサルさん

……………小寺 重孝

NO. 39 平成4年3月1日発行

実験動物施設からの廃棄物……………田中 勝

医療廃棄物の問題について……………松本 昭一郎

実験動物施設の廃棄物処理について

……………渡辺 昇

廃棄物処理装置、機器について……………小澤 満

実験動物の原価と生産費の計算について

……………常秋 美作

NO. 40 平成4年5月1日発行

「日動協会報」への期待……………日柳 政彦

NO. 41 平成4年7月1日発行

組換え実験小動物の生産と供給……赤松 暁
組換え実験小動物の利用に係る規定について
……………長谷部 亮
外来性遺伝子導入動物の利用……………東 條 英 昭

NO. 42 平成4年9月1日発行

実験動物としての魚類……………窪 田 三 朗
トランスジェニック魚類とその応用
……………石 川 隆 俊
発がん検定動物としてのメダカ……………青 木 一 子
期待される実験動物としての魚……………岡 本 信 明

NO. 43 平成4年11月1日発行

実験動物施設への技術的関心（動物実験施設の環境）の高まりに期待……………吉田あきら
環境条件の基準値は聖域か……………三 枝 順 三
生体リズムに合わせた環境を……………篠 田 元 扶
ひとつの感想 ………………局 博 一
実験動物施設についての私見……………浅 野 敏 彦

NO. 44 平成5年1月1日発行

ニーズの多様化に対応した生産体制を
……………赤保谷明正
実験動物産業への期待さ大……………大 河 原 太 一 郎
鳥類の実験動物化で活発な意見を…藤 田 潯 吉
データベース構築と研修事業を中心に
……………上 松 嘉 男
バイテク技術に伴う新たな感染症対策を
……………高 木 博 義
技術インストラクターの効果的な利用を
……………山 田 淳 三
広報普及活動に関する具体的な企画を
……………前 島 一 淑

NO. 45 平成5年3月1日発行

実験動物の微生物学的品質標示……………鍵 山 直 子
クリーンコンベンショナル動物について
……………半 田 純 雄
クリーン動物について……………宮 蔭 宏 彰
いわゆるクリーン動物について……………武 井 幸 雄

NO. 46 平成5年5月1日発行

鳥類の実験用モデル・ニホンウズラ
……………猪 貴 義
実験動物としてのニホンウズラ……………佐 藤 勝 紀
わが国におけるウズラの選抜系統の作出とその利用
……………前 田 芳 實
ウズラの系統について……………水 谷 誠

実験動物海外技術情報には実験動物、動物実験に関する記事（全訳、抄訳、新着誌など）が数多く掲載されている。ここでは主なものを抜粋した。

動物福祉の観点からみた生物医学研究における適正な動物数（全訳）No.29（平成3年9月20日発行）

ラットのための高度含水飼料：栄養分析、成長および臓器重量（全訳）No.32（平成4年3月20日発行）

動物技術者と実験動物の福祉（抄訳）No.32（平成4年3月20日発行）

ヒト疾患の大動物モデル（全訳）No.34（平成4年7月20日発行）

生物医学研究におけるトランスジェニックマウス No.34（平成4年7月20日発行）

ケタミン/キシラジン/ブトルファノール：ウサギのための麻酔剤の新しい組み合わせ（抄訳）No.34（平成4年7月20日発行）

実験動物の床敷：実験結果に影響を及ぼす可能性のある外部要因の発生源としての木材およびその成分（抄訳）No.36（平成4年11月20日発行）

胚性幹細胞を用いたマウスゲノムの操作（全訳）No.37（平成5年1月20日発行）

イオン電気導入法による DNA 注入とトランスジェニックの作製（全訳）No.38（平成5年3月20日発行）

筋ジストロフィーの動物モデル：その特徴と応用（全訳）No.39（平成5年5月20日発行）

ウサギの銅中毒（全訳）No.39（平成5年5月20日発行）

肥満およびII型糖尿病の新しいラットモデル（全訳）特集号5（平成3年8月20日発行）

海外諸国の動物保護関係法規 — その1（全訳）特集号6（平成3年10月20日発行）

動物とヒトにおける痛み（全訳）特集号8（平成4年6月20日発行）

医学生物学が直面している動物実験のあり方（全訳）特集号9（平成4年8月20日発行）

サルの行動と研究上の問題（全訳）特集号10（平成4年10月20日発行）

小冊子としては以下のものがあります。

実験動物の生産利用実態現地調査報告書(その三)
平成3年3月・(その四)平成4年9月

「イヌ・ネコの利用状況および入手希望に関するアンケート」調査報告書 平成4年3月

遺伝的モニタリングの実施要領とその解説 — マウス, ラット編 — 平成4年7月

諸外国の動物実験法規制に関する比較研究 平成5年2月

実験動物関連学会・団体一覧 1993 日本実験動物器材協議会発行